

人間発達研究所通信

1998年9月3日学術刊行物認可第430号
ISSN 0913-7092
Vol.26(4)
人間発達研究所
大津市朝日が丘1-4-39
梅田ビル3F
Phone/Fax 077-524-9387

発達保障学校 2011 年度受講者の募集が始まります

人間発達研究所は、構成メンバーである会員が働きつつ学び、学習・研究する拠り所として 1985 年に設立され、会員ひとり一人の、あるいは共同の研究成果が全体のものとなるような活動を目指してきました。発達保障学校はそのような活動の担い手を育成する場として設立当初から構想され、2000 年に開講されたもので、その特徴の 1 つに「学びの中から新しい学びの中身が作られている」ことがあります。受講者の方が、それぞれの現場で起きている問題に向き合いつつ、学び、実践を振り返るといった営みの中で、ゼミ形式のコースではそれらを発表したり討議されることによって、講義形式では、一年のまとめとして提出される修了レポートにまとめられることによって、

その中身が新たな学びの中身となります。講師も、受講者に学びつつ、大学などでは実現が難しいカリキュラムを創造することができる。このような活動は人間発達研究所ならではの活動と言えるでしょう。

発達の階層-段階理論が現場で仕事をしながら研究を続けた人々によって生み出された理論であるように、私たちも現場の息吹が新しい研究を生み出していくような活動が広がることを願っています。

2011 年度発達保障学校受講者募集が始まります。これまでの受講者・世話人の方々から感想文・推薦文を寄せて頂きました。地域的な限界などの課題もありますが、現場研究の一端を担う実践者、学生、若手研究者のみなさんのご参加をお待ちしています。(編)

CONTENTS

発達保障学校 2011 年度の受講募集が始まります	1
会員のページ	
キューバの障害児教育を訪ねて (下) 黒田学	5
Una carta desde HONDURAS (ホンジュラスからの手紙) ⑥ 佐々木規子	10
読書案内	12
事務局だより	13

「個人の発達の系概論コース」

このコースでは発達の知識をたくさん得ることができます。発達心理学はもちろん、生理学、脳科学、進化の話も出てきて、人間をとらえる学問は幅が広いということであらためて実感しました。

講義の中で新しく頂いた視点がいくつかあります。まずは、新しい能力を獲得することは単純に喜ばしいことなのだろうか、ということです。能力の発達によってできることが増えていく一方、その能力を獲得する以前の状態にはもう戻れないということを意味するという視点です。例えば、科学的な概念を獲得することで、それまで見えていた世界が見えなくなるということがある。発達するということにはそういう面もあるという指摘に、なるほどと思いました。

つぎに、発達するという事の中身を潜在能力という意味でのコンピテンスと、表に現れてくる行動という意味でのパフォーマンスに分けてとらえることです。発達するという事の中には、コンピテンスを促進する方向と、パフォーマンスをたくさん引き出す、発達を豊かにするという2つの方向が取り出せる。この視点を持てば、例えば、目の前にいる子があることをしないのは、コンピテンスがないから、できないからしないのか、コンピテンスはあるのだが、できるけれどもしないのか、2つの可能性が考えられる。これによって子どもをとらえる視点が豊かになるという指摘になるほどと思いました。

それから、発達を発達段階や知能指数でとらえることが、本来移り変わっていく動的なものである発達を結果として静止したものとしてとらえていることになるという指摘です。これには歴史的にも重要な意味があるという説明があり、就学猶予・免除の時代に発達研究に期待されていた役割は、障害児に教育することは無意味だということを一掃することであったということです。障害は固定された状態であるという前提の元に、「精神薄弱」や「白痴」という障害が取り出されてきた。しかし、障害を持つ子ども達の変化を間近でとらえてきた実践者たちが、本当にそうなのか、障害の状態は変化し発達するのではないかという立場に立って「可逆操作」概念を出してきた。それによって障害児も教育することが可能である、障害児も教育することで変わっていく存在であるということが明らかになった。「精神薄弱」も「可逆操作」も同じ発達を定義している概念であるけれども、そこから導き出されるものは全く違ったものになる。これによって発達をとらえる時にどういう立場に立つのかということが大事なのだと教えて頂きました。

この概論コースでは、発達の知識もそのものも学びましたが、同時に発達をとらえる視点と方法を学ばせて頂いたと思っています。子どもの発達を見るときにどういうことを問題にしたいのか、それによって用いる概念や枠組みが変わってくるということです。子どもの気になる姿に共通している部分を切り取れるよう

な概念を設定する。そうすることによって実践を抽象化できる。同時に子どもは今こういうことを要求しているのではないかという仮説が持てる。それによって実践における子どもへの適切な指導も見えてくる。

こうした論理や視点が、講義の中では子どもの姿や絵本、詩など、わかりやすい題材を用いてわかりやすく展開されています。振り返ると1年前にはちょっと発達をかじったくらいの学生でしたが、いつの間にか自分の発達をとらえる力が量的にはなく、質的に上がったのではないかと思いました。みなさんも是非、個人の発達の系概論コースを履修して、現場に研究に役立てて頂きたいと思いません。

(大西 壘, 2010年4月29日発達保障学校説明会にて)

「人間発達と集団コース」

人間発達と集団コースは、個人の発達にとって集団とは何か、集団そのものの発展とは、集団と社会の発展の関係など、集団という視点から人間の発達について学んでいくコースです。

本コースは、講師による講義と受講生からのレポート発表の二つを軸に進められました。講義では、集団の意味や福祉・教育現場で集団をどう位置づけるのかななどを学びました。障害を持つ人や生徒の集団づくりはもちろん、職員集団や施設・地域づくりの話題まで学べます。

レポートでは、多彩な受講生の方から

生徒・利用者への支援や職員・教師の集団づくりで実践していること、そのなかで大切にしてきたことや悩みが報告されました。

集団の中で共感や信頼できる関係をつくっていくことによって、個人が生き、さらに集団が生きてくる、そのような集団の発展を大切にしたいと思いました。

集団がバラバラにされ、孤立や無縁ということが問題になるなかで、今、集団を考えることがとても大切になっていると思います。多様な受講生と交流することも魅力です。ぜひ、人間発達と集団コースを受講してみてください。

(黒川真友)

「発達保障実践論コース」

実践現場で抱える“悩みや不安・疑問・怒り・そして喜び”について、受講生が共に学び、語り、考え合えるのが“発達保障実践論コース”の魅力です。

現場職員から厚い支持を受けている田村さんが、発達保障という観点から日々の実践を丁寧にわかりやすく紐解いてくれます。「実践はわたし達の生活と共にある」「やっぱり実践っていいな…！」援助者自身がキラキラ輝き出すことで、“その人をキラキラにする実践”に繋がることをこの講座で実感できます。

(H)

「実践記録論コース」

福祉や教育の仕事を選んで働きはじめ、

毎日、目の前の人と向き合って奮闘し、1年くらいたって、「実践レポートを書いて」と先輩から言われ……。 「レポート??」私も何本か書いたものの、「この書き方でいいのかな?」「伝わってるのかな?」わからないまま書いていることに不安がでてきていました。 そんな時この学校のコースに出会い、「一度きちんと勉強してみよう」と思い参加しました。 今年の越野コースには、福祉職員・教員・発達相談員……といろんな参加者がいて、みんなで「そもそもなんで実践記録を書くのかな?」「伝えたい事を伝えるにはどう書いたらいいのかな?」などを勉強しました。 勉強ってひとりでするより、みんなでしたほうがすごく身に着くものです。 ある参加者が「重度の子たちっておもしろいよ!って伝えたい」と言っているのを聞いて、私も自分が伝えたい事を伝えられる実践レポートが書きたい!とムクムクやる気が出てきました。 悩みながら書いているアナタ!お勧めです!

(福祉職員)

※ 2011年度は「実践記録の書き方コース」を開設します。

「発達基礎理論研究コース」

このコースは、田中昌人氏らの「可逆操作の高次化における『階層-段階理論』を学習できるコースです。 今年、前半では『人間発達の科学』と『人間発達の理論』のテキストを学習し、後半には『子どもの発達と診断』のテキストと

『発達診断の実際』のビデオをもとに学びました。

このコースの魅力は、普段一人ではなかなか学習することが難しいテキストやビデオを参加者のみなさんと一緒に学習できること、そして、担当の荒木先生にわかりやすく解説していただけることです。 また、参加者の方が現場での子どもの姿を紹介されることもあり、理論と実際の子どもの姿を結び付けて学ぶこともできます。 例えば、4歳児の発達を学習したときに、参加された保育園の先生から「4歳児クラスの子どもは……な姿がある」といったお話を聞くことができました。

(K)

原稿を募集しています!

人間発達通信への投稿

字数：1200字～7500字まで

期日：8月20日（9月発行分）

投稿の際は E-mail もご利用下さい。

匿名希望の場合は、その旨お知らせ下さい。次号は6月発行です。

人間発達研究所通信はメール配信も可能です。メール配信のみへの移行、メール配信と印刷物の郵送と両方など、ご希望の方はお知らせ下さい。



キューバの障害児教育を訪ねて（下）

黒田 学（立命館大学産業社会学部）

1. キューバの障害児教育の概要

——ラテンアメリカ障害児教育センター（CELAEE）への調査から——

前節に引き続き、キューバの障害児教育の概要について、ラテンアメリカ障害児教育センター所長ロドリゲス氏へのインタビュー結果をもとに整理する。

(2) キューバの障害児教育の歴史

キューバの障害児教育の歴史は、1959年の革命以前は、カトリック教会によって設立された8校に124名の子どもたちが障害児教育を受けていたに過ぎない。現在では、403の障害児学校に4万1千人の子どもたちが教育を受け、1万4千人の教師と専門家が教育を行い、子どもたちを支えている。1962年に障害児教育はキューバの教育制度に位置づけられ、教育省に障害児教育担当課が設置された。1960年代は、障害児教育の必要性が明確となった時期であり、各種の法律が制定され、学校施設の整備がなされるとともに、多様な専門家によって教育を行うことが定められ、全国的なシステムとして展開してきた。多様な分野から参加した専門家は各学校・施設に責任を持っている。近年、国会で新法が制定され、障害のある子どもの母親は、勤務を離れて子どもの介護を行う権利が認められ、給与保障がなされるようになった。

1980年代の障害児教育改革は、教育

改革全体のプロセスに組み入れられた。学習プログラムは再検討され、新しい教科書が作成されるとともに、新たな障害児学校の設立をはじめた。1960年代に亡命者の家屋を利用しリフォームした校舎ではなく、新たな校舎を建設した。しかし、1990年代の経済問題でそれは頓挫した。50年に及ぶ経済封鎖の影響は大きい。

1990年代は、新たな改革の時期であった。それは国際的潮流に伴うものであり、1994年のユネスコ・サラマンカ宣言以降、大きく変化してきた。また、キューバの教育は、革命家ホセ・マルティ²⁾思想、カストロのアイデアによるところが大きい。1990年代は、ヴィゴツキーの理論を基礎とするようになった。ヴィゴツキーは、人間を社会的歴史的存在と見なし、人間は社会・集団を媒介にして発達するものと捉えた。キューバの教育のもつ人間性はここに依拠している。世界はこのようなヴィゴツキーを理論ベースとした科学的教授法と異なる理論をベースにしている。

キューバの教育は、ピアジェの構成主義も、行動主義心理学の立場もとらない。ヴィゴツキーの思想は、人間性を積極的に捉える楽天主義の考え方と言っても良い。キューバの教育は、すべての子どもたちの教育の権利を保障し、国の教育シ

システムは、子どもたち一人ひとりのニーズに応じた教育をめざしている。子どもたち一人ひとりのニーズに応じた教育を行う上で、障害児教育、障害児学校の役割は大きい。障害児教育のカリキュラムは、一般的教育方法と異なっても、教育の目的は同じである。

キューバの教育は、世界の動向（インクルーシブ教育の名の下での障害児教育の否定）に反して、障害児教育の専門性を重視している。キューバの障害児教育は、言語療法士、教育心理学者、ソーシャルワーカーなどの様々な専門家チームが、教育プロセスに参加する。芸術分野の講師も参加している。革命家ホセ・マルティの言葉、「障害児への教育を行わないのは、国としての犯罪である」は、障害児教育の基礎となる象徴的な言葉であり、障害児を支えるのは社会の役割と認識されている。

表2 キューバの障害者統計（2001-2003年）

身体障害	92,506(人)	25.22 (%)
視覚障害	46,455	12.66
聴覚障害	23,620	6.44
精神障害	36,869	10.05
慢性腎不全	1,831	0.50
重複障害	25,094	6.84
知的障害	140,489	38.29
合計	366,864	100.00
		(人口比 3.23%)

出所) *Por la Vida*, Casa Editora Abril, 2003, p. 30, p. 48 から筆者作成。なお本統計は、キューバ政府によって、2001年～2003年にかけて行われた障害者の全数調査によるものである。

(3) コミュニティと教育

1990年代の新しい流れは、学校と家族との結びつきを強め、障害のある人のニーズや問題をコミュニティで解決することがめざされ、ソーシャルワーカーの役割が強調されるようになった。家族にとってコミュニティとの関係は非常に強く、コミュニティは障害のある子どものことを考えなければならない。障害のある子どもへの家族の受けとめ、その心理の難しさ、困難さや足りなさをコミュニティが受けとめなければならない。

全国にある障害児学校は、障害児施設や様々な組織との関係が深い。キューバの障害者団体は、視覚障害者、聴覚障害者については当事者組織として組織されているが、知的障害者の組織や知的障害児の家族の組織はない。コミュニティが知的障害者やその家族を支えている。また、障害児教育、障害児学校は、幼稚園、障害児学級、厚生省所属の医療教育学校、少年更生学校、孤児のための施設と連携している。障害児教育は、視覚障害、聴覚障害、コミュニケーション障害、行動障害、身体障害、ぜんそくや糖尿病などの疾患、成長障害、重度障害など多岐にわたっている。重度障害児への訪問教育や院内学級も実施されている。0～3歳の子どもへの早期介入では、障害の診断、評価、相談、準備教育が構成され、医療制度と一体となっている。

(4) 障害児教育の専門性と権利性

障害児教育は、学士号取得の専門家が支えている。本センターは、専門家のレベルアップを図るために、教員養成大学

と連携している。教員養成大学には教育学修士コースが準備され、言語療法など様々な研究プログラムが存在している。キューバの障害児教育では4千人以上の専門家が修士号を取得し、教育学の博士コースには92名が在籍している。教育省には12の教育研究分野があり、障害児教育は第2番目に位置づけられている。

本センターは、教育省の下で21の研究プロジェクトを担当し、その内6つのプロジェクトを本センターで実施している。なお、一般的な教員養成制度においては、障害児教育のカリキュラムが含まれており、学生たちが最初に経験する実習先は障害児学校である。

キューバの教育は、権利であり、平等の教育であり、子どもの可能性を追求する教育である。また労働の権利を保障し、人間としての価値が尊重され、自立が追求されるものである。子どもたちが自立した生活を送ることができるように、専門的に障害児教育を行い、子どもが人生で何ができるかを保障することが大切である。知的障害児は障害児学校を卒業後、一般的な職業学校に入学することも可能である。

2. 知的障害児学校と施設の訪問調査

(1) シエラ・マエステラ知的障害児学校

シエラ・マエステラ知的障害児学校は、その前進は、革命前の1948年に設立された視覚障害学校であったが、約20年前に現在の知的障害児学校となった。生徒数160名(男子100名、女子60名)、教員数39名である。障害種別は、軽

度・中度知的障害20名、重度知的障害が25名、自閉症が9名、身体障害7名などである。義務教育段階の1～9学年のクラスに加え、就学前クラス(準備教育)、職業教育を行う補助コースがある。小学部(1～4年生)の時間割は、月曜日から金曜日まで、午前7時30分から午後4時20分まで、45分授業で、午前5コマ、午後3コマ、教科は国語、算数、自然科学、手芸、コンピューター、体育などからなる。教授法に関する文献や情報が少なく、また教材が足りず、段ボール紙やペットボトルなどをリサイクルして手作りで対応している。

短時間であったが校内を見学し、授業を参観した。各教室では、先生と子どもたちとの和やかなやりとりがあった。全生徒が集まったの徒競走大会(「ミニオリンピック」という名称)では、玄関先の20メートルほどのスペースを使っての実践である。仲間からの声援を受けて、子どもたちがゴールに向かって懸命に走る姿、それをゴールで待ち受ける先生の笑顔が印象的であった。子どもたちは愛されて育てられていることを実感できる場面であった。

全生徒が集まったの徒競走大会



校舎には、スロープが作られバリアフリーが意識されていたが、建物や教室の設備は老朽化しており教室の照度不足が気になるところだった。

(2)カステラーナ中央教育心理センター

保健省管轄の本センターは、1963年に設立された重度知的障害者と精神障害者のための施設である。110名が入所し、200名が通所している。6歳から58歳までが対象であり、18歳までは通所、18歳以上が入所している。18歳までの80名が教育を受けている。職員数は235名で、医師、看護師、心理学者、言語療法士、物理療法士、ソーシャルワーカー、音楽・スポーツ・職業の各インストラクター、障害児教育教師からなる。教師は18名（内助手は9名）で9クラスが設置され、授業が行われている。家族への教育プログラムもある。

センターには、一般就労ができる人とセンター内の作業場で就労する人がいる。センター内の作業場では、民芸品の製作などが行われ、一般就労の準備という位置づけも含まれている。センター内の仕事、清掃や調理、農作業などに13名が常勤として働いている。

作業だけでなく、音楽や演劇などの文化活動、スポーツにも活発に取り組んでおり、スペシャルオリンピックスに4名が出場し、新体操の競技で2名がメダルを獲得したという実績がある。

センターの活動のスローガンは、「彼らは何ができるか、私たちが教えることを彼らは習うことができる」「限界は彼らではなく私たちである」というもので、

すべての活動の出発点である。センターで提供されるサービス、医療費、食費、家族への教育もすべて無料である。

センター内のダンスチーム（前の2人がメダルを獲得）



ここでも短時間であったが、施設内を見学した。木々に囲まれた広々とした敷地に、教室のある校舎や作業場、生活棟が建てられ、のびのびと過ごしていた。教室では、ことばや数の授業が行われ、重度障害の生徒には個別対応の場面も見られた。作業場では、障害の程度にあわせて、4～6名のグループを編成し、人形作りや色づけ、手編みなどの製作が行われていた。指導者が、製作のための材料不足に困っていると話していたのが印象的であった。

おわりに

紙数の関係で訪問先すべてについて詳述できなかったが、以上のほかに、いくつか触れておくことにしたい。

ハバナ大学心理学部では、障害児心理を専門とする教員の研究室を訪ねた。そこでは、就学前の子どもを対象とした療育教室と障害学生センターを兼ねていた。最近になって療育教室の取り組みを大学

に認めさせたこと、広汎性発達障害の学生支援の困難さを熱っぽく語っておられた。

教育省知的障害学校課職員へのインタビューでは、乳幼児の集団健診について質問したが、適切な回答が得られず埒があかなかった。しかし、後ほどわかったことだが、これは調査者の認識不足であった。

キューバでは、そもそも集団健診というシステムがなく、「ファミリードクター制度」³⁾によって、ファミリードクターが、小児科医とともに子どもたちの健康と発達を管理している。特に、出生前15～19週はいつでも、生後5日、さらに生後1ヶ月には毎週または2週に1度、生後2ヶ月には2週に1度、生後3ヶ月から1歳は月1度、ファミリードクターと小児科医による診療が随時行われ、障害の早期発見に対応している。聴力測定や心理検査が行われ、生後6ヶ月までに14種類の予防接種も行われている。もちろんこれらはすべて無料である。誰もがいつでも安心して医療を受けられるため、障害の発見や対応についても、受診に応じてその都度なされるという仕組みである。ファミリードクター制度が乳幼児健診の役割を果たしているということであった。乳幼児死亡率の低さとともに注目すべき点であろう。

本調査は、識字率の高いキューバの教育において、障害児への教育はどの程度進んでいるのかという問題意識をもって望んだ。インフラの未整備や施設・職員等の諸条件は極めて厳しいが、すべての

障害児への教育保障（医療保障）を行っている点は、途上国としての経済力、財政力から考えると高い水準を保っていると言えよう。もちろん、行政関係者へのインタビューや首都ハバナの学校や施設を訪問しただけで結論づけるのは危険であり、地方も含め対象を拡大しつつ、継続的に研究・調査を進めていくことが必要である。

【注】

- 2) ホセ・マルティ（1853-95年）は、キューバ革命党を創立し、その生涯をキューバの独立運動に捧げた人物である。革命家としてだけではなく、思想家、詩人、文学者としてもキューバだけでなくラテンアメリカ全体に影響を与えた（神代修『キューバ史研究』文理閣、2010年、121～135ページ）。
- 3) キューバに詳しい吉田太郎氏によると、ファミリードクター制度は、プライマリ・ケアをめざして1985年に開始され、120世帯700～800人を対象とした地域医療の制度である。ファミリードクターが1人ですべての診療を行うのではなく、他のファミリードクターや内科医、小児科医、眼科医、心理学者、統計専門家、ソーシャルワーカーがベシック・ワーク・グループを編成して対応している（吉田太郎『世界がキューバ医療を手本にするわけ』築地書館、2007年、26～27ページ、50～53ページ）。

【参考文献】

- 西村富明『こころ豊かな国キューバ』本の泉社、2010年。
- 吉田太郎『世界がキューバの高学力に注目するわけ』築地書館、2008年。
- 吉田太郎『「没落先進国」キューバを日本が手本にしたいわけ』築地書館、2009年。

（くろだ まなぶ）



2011 年、新しい年を日本の人たちはどのように迎えたのでしょうか。昨年のクリスマスにホンジュラスの人たちは花火と爆竹で祝っていました。年が明け、毎日の生活は落ち着いてはいるものの、ニュースでは必ず強盗やドラッグに関わった事件が流れています。また、公共交通機関のないここでは唯一自動車移動の便を助けていますが、そのガソリン代が毎月曜日に少しずつ値上がりをつづけ、人々の生活を圧迫しています。

先日、JICA の安全対策連絡協議会の講習に参加しました。そこで 2010 年度の世界 10 大危険都市の発表があり、その中にホンジュラスのサン・ペドロ・スーラ（第 2 位）と首都テグシガルパ（第 6 位）が入っていました。改めて驚きながら残りの任期 5 か月弱を安全に過ごそうと思いました。

ホンジュラスの学校は 11 月終業し、2 月に始まります。私はクリスマス休暇と新年の休暇をいつもより長くのんびりと過ごし、今までにない思いを感じました。「もうそろそろ仕事をしたい！」外出もままならない日々を自宅で過ごすことの限界を感じたようです。

さて、昨年度の活動を振り返ると、APANJE（アパンヘ）の生徒の成長変化を確実に感じることができ幸いでした。年度末に評価項目をチェックするときに分かったのですが、作業能力の向上が顕著に表れたのです。それは何かと言うと“視線”の変化でした。評価の項目は現地の教育大学の作成したものを使っていますが、そこにぬり絵の課題があり、1 年目に行ったときはどの生徒も枠を意識しつつもはみだしていたのです。円を切りぬく課題でも、去年は円にはならず、一刀両断の生徒やぎざぎざに終わる人が多かったのです。それが今回検査をしてみると、ぬり絵はきちんと仕上げられ、円を切る手元への注意が確実にきれいに切り上げていました。同僚のマリベルに結果を見せると、その違いに彼女は「De veras. (本当だ)」と目を丸くしていました。

APANJE の日々の授業時間は日本に比べると極端に短く、9 時から午後 2 時の下校までにできる課題は限られています。私はここでの「教育課程を検討してほしい」との依頼で、「体育」「美術」「音楽」の導入をすることと、障がいの中重度グループの認識授業の担当をすることが仕事内容でした。認識授業では自分の名前と ABC の文字学習を通年しました。毎日プリント 1 枚は書写に使っていたのですが、「なぞる、書く、描く」という行為を毎日続けた結果、視線が動いて定まらなかった生徒の「目と手の供応」を促したようです。ほとんどの生徒が 17 歳以上 20 歳後半でかつては未就学児童でした。その彼らがきちんと線を描き、

自分の字を書いた時のうれしそうな顔はここでの私の一番の思い出となりそうです。

「体育」に関してはほとんど私も素人状態ですが、ホンジュラス全般の教育の中で日常的に「体を作る」という意識がみられず、その点では私の意識は彼らより確実なものを持っていました。それは「体が開けば、心がひらく」という重度重複児の指導をしていた時の合言葉です。音楽に合わせて、集団でできる内容を選び1年3か月継続すると、生徒の体の動きに安定と活発さがみられました。そして自分から動き、遊び出すこともしていました。

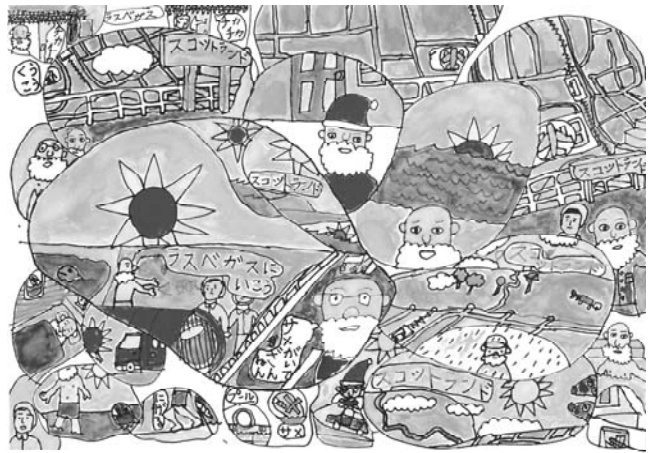
バス到着時、生徒は2時間ほどバスに揺られてきます。お腹もすき、到着後はメリエンダと言うおやつ時間をとり、その後の学習時間は30分ほど、そして「体育」「職業作業学習」「昼食」午後は「美術」「音楽」「体」「遊び」各領域教科のひとつを曜日ごとに続けてきました。生活にメリハリが見え、生徒は今日することへの意識も育ち、確実に成長を見せてくれました。職員とこの生徒の変化を喜び、昨年11月の修了式には私も大変うれしく、APANJEでの仕事を終わることができました。

(2011年2月12日受取)

アトリエ悠の仲間たち

菅原祐卓「サンタの一日」

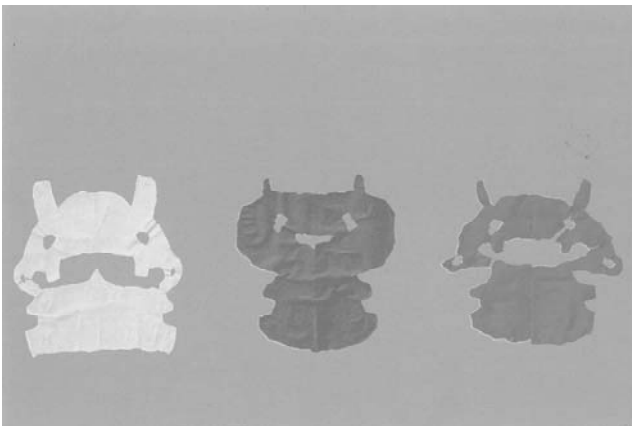
通信 No.78 ~ No.83 にも登場して下さった菅原さん、現在 32 歳になられたそうです。絵を描いている時、幸せそうにクスッと素敵な笑顔を見せられているとのこと。水性ペンと色鉛筆を使って描かれています。



森 史佳「いきもの」

森さんは中学生。女の子のアニメが大好きで、色鉛筆で描くとき、髪の毛をくるくるさせたり、髪の色や洋服の色も自分で決められるとのこと。

自宅で折り紙をびりびり切るのがマイブームだそうです。



読書案内

大泉溥編・解説

『日本の子ども研究』

——明治・大正・昭和——

第13巻 田中昌人の発達過程研究と発達保障論の生成』

2011 クレス出版

大泉溥氏編・解説による「日本の子ども研究——明治・大正・昭和——」は、明治から昭和の100年間の中から、近代日本の子ども研究や基本資料を全Ⅲ期15巻、別巻5に収められた壮大な復刻書の叢書です。このほど発行された第13巻に田中昌人前所長が取り上げられています。ここに収録されている「田中昌人の初期著作」は、大泉氏が大学院教育の中で教材集として研究・編集されたもので、「未知への挑戦を展開した実践的研究者の典型として田中昌人の近江学園時代をとりあげ、その眼力のすごさと研究の醍醐味を院生たちにも実感させてみたくなった」ことがそのきっかけであると記されています（編集余滴より）。「若き日の田中昌人の仕事」を今日的に再現し、追体験するにはどうしたらよいか、大学院生と考え合う中で編まれています。この中には人間発達研究所で取り組まれたアーカイブ作成作業によって資料が発掘された成果も反映されています。

目次

田中昌人『人間発達の科学』青木書店
昭和55年

大泉溥編『田中昌人の初期著作』

第Ⅰ部 近江学園研究部のこと

第Ⅱ部 発達過程の研究

第Ⅲ部 障害児指導への寄与と提案

——近江学園実践の理論的再構成に向けて——

第Ⅳ部 障害者の社会適応

第Ⅴ部 発達保障の研究運動への展開

参考資料

田中昌人年譜

収録文献の出所一覧

※出版社のご好意により、この書籍を税・送料込み23,000円でお分けします（定価26,250円、税込）。ご希望の方は人間発達研究所までご連絡下さい。

田中きよむ著

『少子高齢社会の社会保障論』 2010 中央法規

本書は、田中氏の旧書『少子高齢社会の福祉経済論』初版、改訂版を全面的に加筆・修正・追加され、社会保障制度全般について、各種制度の基本構造が詳しく解説されています。田中氏の長年の研究・教育の成果をまとめられたものです。

目次

第1章 少子高齢化の社会状況

第2章 年金システムの制度分析

第3章 医療システムの制度分析

第4章 介護システムの制度分析

第5章 児童福祉システムの制度分析

第6章 障害者福祉システムの制度分析

第7章 生活保護システムの制度分析

寄贈本

- (記入例) 著者名 発行年 表題・書名 発行所 寄贈者(著者・発行所と同じ場合は省略) 敬称略
- 日本福祉大学社会福祉学部, 2009, 日本福祉大学社会福祉論集 No.121, 日本福祉大学
- 日本福祉大学社会福祉学部, 2010, 日本福祉大学社会福祉論集 No.122, 日本福祉大学
- 日本福祉大学福祉社会開発研究所, 2009, 現代と文化, 特集 福祉文化の思想, 日本福祉大学, (2009.12), 0, 120,
- 日本福祉大学福祉社会開発研究所, 2010, 現代と文化 No.121, 日本福祉大学
- 日本福祉大学子ども発達学部, 2010, 日本福祉大学子ども発達学論集 第2号, 日本福祉大学子ども発達学部
- 名古屋市立大学大学院人間文化研究科, 2010, 人間文化研究 第13号, 名古屋市立大学大学院人間文化研究科
- 岐阜大学地域科学部, 2010, 岐阜大学地域科学部研究報告 Vol.27, 岐阜大学地域科学部
- 清水寛, 2010, 日本特殊教育学会第38回大会・自主シンポジウム報告 ハンセン病療養所における子どもたちの生活・人権・教育の歴史と未来への教訓(Ⅲ)——国立療養所長島愛生園を中心に——, 愛生 第64巻第3号(抜刷), 長島愛生園慰安会
- 全国保育問題研究協議会編集委員会, 2010, 保育問題研究 No.244, 新読書社, 滋賀保問研
- 加藤繁美, 2010, 子どもと歩けばおもしろい——対話と共感の幼児教育論——, ひとなる書房
- 林若子・山本理絵編著, 2010, 異年齢保育の実践と計画, ひとなる書房
- 『ちいさいなかま』編集部編, 2010, 保育のきほん2・3歳児, ちいさいなかま社
- 『ちいさいなかま』編集部編, 2010, いい保育をつくるおとな同士の関係, ちいさいなかま社
- 社会福祉研究交流集会実行委員会事務局, 2010, 第16回社会福祉研究交流集会——しあわせって何だっけ? 生活保障のあるくらし——, 第16回社会福祉研究交流集会実行委員会・総合社会福祉研究所
- 浅川陽子, お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校・中学校・子ども発達教育研究センター, 2008, 「接続期」をつくる——幼・小・中をつなぐ教師と子どもの協働——, 東洋館出版社
- 河野勝行, 2010, 肢体不自由教育の出発——大阪府立堺養護学校の草創と開拓者たち——
- 滋賀県民主教育研究所, 2010, 年報 教育研究しが 2010年度版, 滋賀県民主教育研究所
- 太田ステージ研究会, 2010, 太田ステージ研究会会誌, 第20回研究会号, 太田ステージ研究会
- 北九州市立総合療育センター, 2010, 北九州市立総合療育センター年報 平成21年度版, 北九州市立総合療育センター
- 東北福祉大学, 2010, 東北福祉大学研究紀要 第34巻, 東北福祉大学
- 中村和夫, 2010, ヴィゴーツキーに学ぶ子どもの想像と人格の発達, 福村出版
- 現代と保育編集部, 2010, 現代と教育 78巻, ひとなる書房
- 全国保育問題研究協議会編集委員会, 2010, 保育問題研究 No.245, 新読書社, 滋賀保問研

田丸尚美, 2010, 乳幼児検診と心理相談, 大月書店

日本体育大学紀要委員会, 2010, 日本体育大学紀要 第40巻第1号, 日本体育大学

立命館大学産業社会学会, 2010, 立命館産業社会論集 第46巻第2号, 立命館大学産業社会学会

障害者問題研究編集委員会, 2010, 障害者問題研究 Vol.38 No.3, 全国障害者問題研究会

全国幼年教育研究協議会, 2010, 幼年教育 No.162, 全国幼年教育研究協議会

全国障害者問題研究会, 2011, 全障研第44回全国大会報告集, みんなのねがい No.529, 全国障害者問題研究会出版部

総合社会福祉研究所, 2010, 総合社会福祉研究 No.37, 総合社会福祉研究所

全国保育問題研究協議会編集委員会, 2011, 保育問題研究 No.246, 新読書社

全国病弱教育研究会, 2011, 病気の子どもと医療・教育 Vol.17, 全国病弱教育研究会

基礎経済科学研究所, 2010, 経済科学通信 No.123, 基礎経済科学研究所

垣内国光編著, 2011, 保育に生きる人びと——調査に見る保育者の実態と専門性——, ひとなる書房

寄宿舍教育研究会事務局, 1982, 障害児の生活教育研究 No.2, 寄宿舍教育研究会

寄宿舍教育研究会事務局, 1983, 障害児の生活教育研究 No.3, 寄宿舍教育研究会

寄宿舍教育研究会全国事務局, 2005, 障害児学校寄宿舍の歴史と現状——寄宿舍教育研究会25周年記念集会資料——, 寄宿舍教育研究会

寄宿舍教育研究会, 2005, 実践がいま, 語りかけるもの——障害のある子ども・青年の

生活と教育, 三学出版

大阪千代田短期大学, 2010, 大阪千代田短期大学紀要 No.39, 大阪千代田短期大学

立命館大学大学院応用人間学研究科 心理・教育相談センター, 2010, 生きづらさをかかえた発達障害児・者への支援を考える——さまざまな発達段階における実践と課題——, 立命館大学心理・教育相談センター

立命館大学心理・教育相談センター, 2010, 立命館大学心理・教育相談センター年報 第9号, 立命館大学心理・教育相談センター

日野の里の将来構想を考える会, 1997, 日野の里の将来構想を考える会報告書——日野の里10年構想——, 日野の里

わたむきの里福祉会, 2010, WATAMUKI 10th Anniversary Reception——出会いをつむぎ未来に向けて——, わたむきの里福祉会

障害者問題研究編集委員会, 2011, 障害者問題研究 Vol.38 No.4, 全国障害者問題研究会

立命館大学産業社会学会, 2010, 立命館産業社会論集第46巻第3号, 立命館大学産業社会学会

大泉溥, 2011, 日本の子ども研究——明治・大正・昭和—— 第13巻 田中昌人の発達過程研究と発達保障論の生成, クレス出版 (2月末日まで)

活動報告

9月3日, 10日, 17日 運営委員会

5日 実践記録論コース
学齢期の学力と発達を考える研究会

7日 事務局会議

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 11日 紀要編集委員会
発達診断各論コース | 11日 発達診断セミナー事務局
実践記録論コース |
| 18日～19日 田中昌人前所長アー
カイブ作成集中作業 | 発達基礎理論研究コース |
| 18日 発達保障実践論コース | 12日 個人の発達の系概論コース
学齢期の学力と発達を考える
研究会 |
| 19日 発達基礎理論研究コース | 17日 発達相談研究会 |
| 23日 発達診断セミナー学習会 | 17日, 23日 運営委員会 |
| 26日 個人の発達の系概論コース
人間発達と集団コース | 18日 人間発達と集団コース
発達保障実践論コース |
| 10月1日, 8日, 22日 運営委員会 | 1月7日, 14日, 21日 運営委員会 |
| 2日～3日 発達診断セミナー2010 | 8日, 9日, 23日
発達基礎理論研究コース |
| 2日, 30日 実践記録論コース | 15日 発達診断方法論コース |
| 2日 発達基礎理論研究コース | 22日 発達保障実践論コース |
| 9日 発達保障実践論コース | 28日 高齢期プロジェクト |
| 10日 運営委員会学習会
学齢期の学力と発達を考える
研究会 | 29日 発達診断セミナー事務局 |
| 16日 人間発達と集団コース
発達診断方法論コース | 2月4日 発達相談研究会
12日～13日
人間発達基礎講座第5回 |
| 22日 発達相談研究会 | 18日 事務局会議 |
| 29日 事務局会議 | 19日 発達保障実践論コース
発達診断方法論コース |
| 31日 個人の発達の系概論コース | 20日 個人の発達の系概論コース |
| 11月5日, 12日, 23日, 26日
運営委員会 | 27日 運営委員会 |
| 5日 高齢期プロジェクト | |
| 13日 発達基礎理論研究コース
発達診断方法論コース | |
| 14日 発達診断セミナー事務局 | |
| 20日 人間発達と集団コース | |
| 20日～21日 発達保障実践論コー
ス | |
| 21日 個人の発達の系概論コース | |
| 25日 事務局会議 | |
| 12月4日 発達診断方法論コース | |
| 5日 上半期会計監査 | |

寄付を頂きました

中村 隆一さん 荒木 穂積さん
白石恵理子さん 西野 裕之さん
あゆみ書店さん 匿名さん

新規会員の方 到着順

米澤 春枝さん 道下 利治さん
上安 涼子さん 児島 陽子さん
窪田 知子さん (2月末日まで)

2011年度の日程について

研究助成費の申請期日は4月末日です。ふるってご応募下さい。申請様式はご請求いただくか、ホームページからダウンロードもできます。

研究集会・総会（初夏）、発達診断セミナー（秋）、講座（冬）は開催日が決まり次第お知らせいたします。

ホームページには会員の共同研究の開催日程や内容なども掲載しています。

人間発達研究所研究助成費利用規定

1. 目的と対象

会員の人間の発達に関する学習などの研究活動を援助することを目的とする。

申請者は人間発達研究所会員であること。集会の場合、参加者は人間発達研究所会員に限定しないが、会員が1名以上参加していること。

2. 用途

前項に要する費用のうち、以下の費用を用途とする。

①研究会・学習会等集会の開催に関する会場費・講師料など、②調査活動に関する郵送料や交通費など、③すでに調査や研究を終えた報告集などの買い取り。

3. 限度額

1件5万円を上限とする。

4. 助成の募集期間

募集は年2回、4月末日までと10月末日まで。

5. 申し込み方法

会員は申請様式に記入して人間発達研究所に申請する。

6. 交付の決定

申請に基づき、予算の範囲で運営委員会で可否を決定する。

7. 報告

終了後は、規定の報告様式に従ってすみやかに報告を提出すること。

8. 施行期間

本規定は2010年9月3日より発効する。

編集後記

今号はいかがでしたか？

今年も卒業、入学、異動、と旅立ちの季節になりました。一人ひとりが夢を大きく膨らませられる希望の春となるために、私たちに与えられている宿題はまだたくさんあるなど感じます。

2月の講座で運営委員の共同研究として取り組んだ基調報告がホームページにありますので、是非ご覧下さい。会員のみなさんによって支えられている研究所です。来年度もどうかよろしく願います。(N.S)



人間発達研究所

〒520-0052 滋賀県大津市朝日が丘

1-4-39 梅田ビル3階

TEL/FAX 077-524-9387

E-mail j-ih63su@j-ihd.com

URL <http://www.j-ihd.com/>

年会費 5,000円

振込口座（郵便）01010-7-32709

加入者名 人間発達研究所

※学生の会費割戻しはお問い合わせ下さい。